

令和2年度  
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和 3 年 1 月 2 0 日

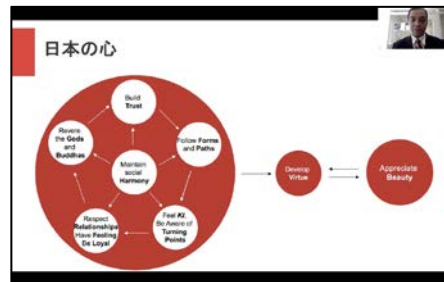
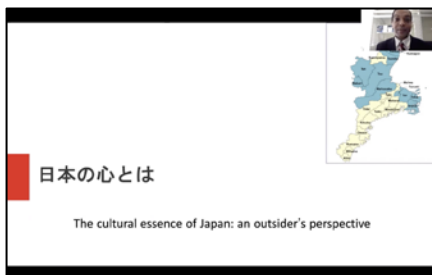
三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 (元) ウメオ大学 (スウェーデン)・Gayle Alberto Alexander
2. 受入研究者 所属・職・氏名 国際交流センター 地域人材教育開発機構・准教授・松岡知津子および助教・正路真一
3. 招へい期間 令和 2 年 1 1 月 2 4 日 ~ 令和 2 年 1 2 月 2 1 日
4. 活動実施の内容とその成果 <p>滞在期間に、国際交流センターが開講する科目「三重学：三重の社会と文化」において、受講者 15 名（日本人学生 8 名、外国人留学生 7 名）において、オンライン配信（録画）形式で 3 週にわたり招聘教員 Gayle 氏による講義が行われた。本科目は使用言語が英語となっており、招聘教員による講義も全て英語で行われた。受講学生にとってはネイティブの英語話者による講義を受ける貴重な機会となった。3 回の講義が行われたが、各回の授業テーマは以下のとおりである。</p> <p>第 1 回（12 月 1 日）A Personal Story: Appreciation and Growth at Mie University</p> <p>この講義に先立って、本科目では三重県は外国人住民割合が多い県であることを三重県の特徴の一つとして捉え、三重県で働く外国人を対象としたインタビュー記事などを教材として使っていた。これに関連づけ、本講義では、招聘教員 Gayle 氏自身が過去に三重県内で就業していた経験などを基に、外国人が日本で仕事を得る際にぶつかる困難やストレス、またこれらを乗り越える際に自分を支えてくれた経験などについて講義した。また、招聘教員から受講学生への課題として、学生自身が過去の人生においてどのような大きな決断をしたかなどを書かせるエッセー問題を課した。提出された各学生の回答（全て英語）には招聘教員が個別にフィードバックを与え、授業担当教員を通じて次の授業日に各学生に返却された。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div data-bbox="282 1675 751 1968"></div><div data-bbox="821 1666 1310 1968"></div></div> <p>(第 1 回講義動画：右上のウィップに招聘教員 Gayle 氏)</p>

## 第2回（12月8日）The Cultural Essence of Japan: An Outsider's Perspective

この講義では、より一般的な「日本の文化」について、特に外国人である招聘教員 Gayle 氏が強い印象を与えられたものについて講義が行われた。主な内容としては、「和を保つ」、「場をわかまえる」、「型・道に従う、求道」、「義理・人情」、「恥、面目」、「わび、さび」などといった日本人の精神についてのものであった。講義の最後に、本科目「三重学：三重の社会と文化」の内容を踏まえ、三重県において「日本の心」が見られるものは何かというエッセー問題を課した。提出された各学生の回答（全て英語）には招聘教員が個別にフィードバックを与え、授業担当教員を通じて次の授業日に各学生に返却された。



(第2回講義動画)

## 第3回（12月15日）Depopulation Japan

この最終講義では、今回の3つの講義の中で招聘教員の専門分野に最も近いテーマとして、日本の人口減少についての講義が行われた。現在に至るまでの日本の人口減少の状況、これに対する政府の施策、地域経済との関連、一人親世帯との関連などについて講義が行われた。講義の最後に、本講義に対する感想を問うエッセー問題が課された。提出された各学生の回答（全て英語）には招聘教員が個別にフィードバックを与え、授業担当教員を通じて次の授業日に各学生に返却された。



(第3回講義動画)